

周

周は、用と口との会意字です。用は、**𠂔**で、牧場に張りめぐらした柵の象形で、“はりめぐらす”のが本義の字だということは、第一部の「𠂔」の所でお話しました。

周は、“口をめぐらす”ということで、“言葉を十分に尽くして説明する”のが本義の字です。転じて、広く“物事のゆきとどく”意味に使われます。用意周到。また、単に用の本義“めぐる”の意味にも使われます。周期。周圀。周遊。円周。音はシュウ。

週は、周と辵との会意形声字で、“まわりをまわる”のが本義の字です。今では、もっぱら七曜の一まわりする意味に使われています。週間。週刊誌。毎週。

稠は、ゆきとどく意味の周と禾との会意形声字で、“稲の豊かにみゆる”ことを表わした字です。音は周^{シュウ}がなまってチュウ。転じて広く“物事の多い”意味に使われます。人口稠密^{ジンコウ、ミツ}。

調は、ゆきとどく意味の周と言との会意形声字です。音は周^{チュウ}が変化してチョウ。言葉がよくゆき届いて、そのため物事が“よくととのう”という意味の字です。調和。調節。

彫は、“かざり”“美しい”という意味の部首の彡と周との会意形声字です。音は調^{チョウ}。玉を削り磨いてよく調えることを「瑯」と言います。仕上がってこれに“かざり”をつけるのが彫です。今は「彫刻」など、“ほる”“きざむ”という意味に使われます。

凋は、あまねく行きわたる意味の周と氷の意味の冫との会意形声字です。音は周^{チョウ}。寒さがあまねくいきわたり、どこも氷でとざされる頃になると、草木は“しぼみ”ます。凋落（草木の葉がしぼみ落ちること。転じて人の落ちぶれること）。

蝟は、鳴き声のよくいきわたる“せみ”のことです。